

経世済民新聞、令和元年5月20日

「内需冷え込み」による輸入急落が無ければ、 名目成長率は「マイナス2・7%」です。

京都大学大学院教授 藤井聡

本日5月20日の午前、政府からGDP速報値が公表されました。

1-3月期のGDPは、経済の冷え込みからマイナス成長になるのでは、との観測が支配的でしたが、蓋を開けてみればなんと、年率プラス2・1%。

この「意外」な結果を受けて早速、茂木大臣などは消費増税を行うと明言しています。

<http://www.asahi.com/business/reuters/CRBKCN1SQ010.html>

しかし、今回のGDPプラス成長は、「単なる見かけ上」の数字。

何と言っても、今回の成長に最も寄与したのが、内需の拡大でも輸出の拡大でもなく、「輸入の減少」だったからです！

具体的に言うなら、名目値で言えば、102.9兆円もあつた輸入が94.7兆円へ

と8.2兆円も一気に急落。この8.2兆円の急落が、見かけ上、GDPを押し上げたのです（統計上、輸入はGDPから「差し引く」項目なのです）。

もしもこの輸入減が無ければ、GDPはプラス成長どころか、名目で年率マイナス2・7%になっていたのです！（実質では年率マイナス1・3%）

ではなぜ、輸入がここまで急落したのかと言えば、内需が冷え込み、日本人の購買力が下落したからです。

事実、消費も投資も下落しています（<https://this.kiji.is/502993738726098017>）。

つまり今回のGDP成長は、内需が冷え込み過ぎたあおりを受けて輸入が減

り、その結果、もたらされた「単なる見かけ上」の数字に過ぎなかったのです。統計はあくまでも統計。

使いこなすには、それを読み解くリテラシー（読解能力）が必須です。

日本政府、そして、国会においては、的確なリテラシーに基づく正しき政治判

断を下されんことを、心から祈念したいと思います。